

7月7日からの大雨に関する知事コメント

(令和3年7月9日)

- 県内の降り始めからの雨量は、多いところでは既に360ミリを超えています。360ミリといってもピンとこないかもしれませんが、これは、県内の平年の7月の一か月分の降水量を超えている水準です。3年前の西日本豪雨の時の雨量にも匹敵する状況です。
- 土壌雨量指数が高い状態が続いていまして、大変危険な状況になっています。
- 昨夜8時30分に、県内の複数の自治体に発令されていた土砂災害警戒情報は、一旦すべて解除されましたが、再度、広島市、大竹市、廿日市市、海田町、熊野町、坂町に土砂災害警戒情報が出ています。このほか、多くの自治体において大雨や洪水の警報それから注意報が発表されています。
- 今朝から、沿岸部を中心に、多いところで、60ミリを超える雨が観測されており、今後1時間当たり最大40ミリ、24時間では最大100ミリ程度の雨が降るという予報も出ています。
- また、河川においても、水位が上昇しています。今後の降雨の状況によっては、さらに水位が上昇し、氾濫の恐れがでてくる河川が出ることも懸念されます。
- 今落ち着いているようでも、これまでの大雨により、土壌は緩んでいます。いつ災害が起きてもおかしくない状況であります。
- 3年前の西日本豪雨災害のような災害が起きる条件は既にそろっています。
- 西日本豪雨災害では、避難行動の遅れから、被災された方が多くおられます。被災された方々は、皆さん、「自分がこんなことになるとは思わなかった、これは初めての経験だ」という風におっしゃっています。
- 今一度、ハザードマップ等を確認していただき、市町の避難指示が発令されていて、土砂災害警戒区域や浸水の恐れがある地域にお住まいの方は、直ちに避難行動をとってください。また、これから避難指示等が出た場合も直ちに避難行動をとってください。
- また、離れたところにお住まいの方、特に高齢者など避難に時間のかかる方がいらっしゃる場合には、すぐにメールや電話で連絡をとり、避難するように呼び掛けてください。
- 熱海の土砂災害は、降り始めからの降水量が250ミリを超えたところで、一度小康状態となりました。翌日、再度降雨が強まり、総雨量が370ミリを超えた段階で土石流が発生しています。
- まさに、現在の県内における状況と同様であるということを強く認識していただければと思います。
- 繰り返しになりますが、今、大きな災害がいつ起きてもおかしくない極めて危険な状況になっています。あなたや大切な方の命を守るために、行動を直ちに開始してください。よろしく願いいたします。